

# 河川の水質改善に貢献

## 大阪市建設局から今福下水処理場 No.5, 11ポンプ設備工事（その1-1）を受注

大阪市建設局から今福下水処理場の雨水ポンプと汚水ポンプの更新工事を受注しました。

大阪の下水道の歴史は古く、豊臣秀吉の大阪城築城の際に「太閤下水」と呼ばれる下水溝が既に整備されていました。しかし、明治時代にコレラが大流行して多数の犠牲者が出たため、下水道の整備が強く求められ、1894年に最初の近代的水道事業が着手されました。その後、急激な市勢の発展に伴い下水の量が増加して河川の水質汚濁を招いたことから、下水を処理・浄化する必要が生じ、1940年の津守・海老江の両下水処理場の通水にはじまり、戦後の数次にわたる下水道整備を経て10ヶ所の下水処理場が建設されました。その事業のなかで7番目の処理場として1966年に建設されたのが今福下水処理場です。

本処理場は、大阪市東部の城東区にあり、旭区と都島区の全域および城東区と鶴見区の一部を排水区域としています。本処理場には市が定めたシンボルツリーのきんもくせい金木犀が植栽され、開花時期の9月には黄金色の花が咲きそろい、素敵な香りが場内を包んでいます。

市民の生命と財産を守り生活の向上に貢献してきた下水道設備ですが、現在は老朽化が進んでおり、抽水所（ポンプ場）や下水処理場の改築・更新が順次実施されていま

す。本処理場においては、今回の工事で設置する雨水ポンプの送水先に、降雨初期の汚れた雨水を一時的に貯留する雨水滞水池が建設されます。雨水と汚水を同じ下水道で流す合流式下水道では大雨時に一部の下水が未処理で河川に放流されますが、雨水滞水池によって貯留された雨水は降雨後に処理を行ってから放流されるようになり、河川の水質改善に貢献することになります。

今回の工事では、既設の1,350mm立軸斜流ポンプ1台を1,200mm立軸斜流ポンプへ取り替え、1,350mm両吸込渦巻ポンプ1台を始動性に優れる1,350mm減速機搭載型立軸斜流ポンプへ取り替えます。処理場を稼働させながらの施工となるため、安全確保や機能確保に細心の注意を要する工事となります。

現在、2025年3月末の竣工をめざし、ポンプの設計製作と工事の施工計画立案が全力で進められています。

ポンプ名称	No.5 雨水ポンプ	No.11 汚水ポンプ
口径・形式	1,200mm 立軸斜流ポンプ	1,350mm 減速機搭載型 立軸斜流ポンプ
台数	1台	1台
原動機容量	720 kW	730 kW